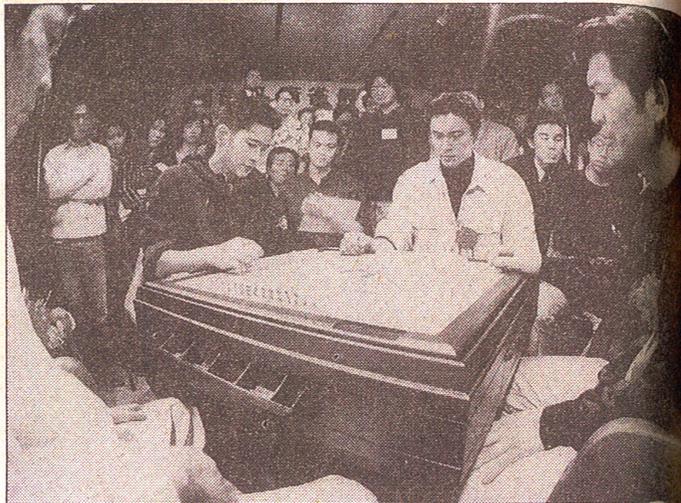
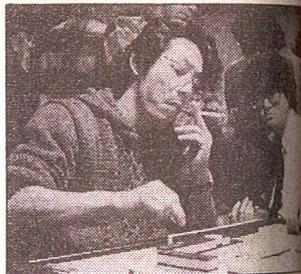


観戦者の期待に応える大激闘を演じた萩原聖人。



# 激闘譜

文/南波捲  
PHOTO/小池弘行



決勝進出を目前にして涙を呑んだ来賓有志の3・4回戦は見事な大トップだった。

決勝を前に各人の声を拾おうと、私は会場の周辺を徘徊してみた。「やっぱり萩原君に勢いを感じますね。意識しないわけにはいかないでしょう」と丁寧に話し

決勝を前に各人の声を拾おうと、私は会場の周辺を徘徊してみた。「やっぱり萩原君に勢いを感じますね。意識しないわけにはいかないでしょう」と丁寧に話し

私がいちばん話を聞いてみたかったのは、安藤鶴である。彼は昨年の大会後に竹書房から出

「優勝 頑張っつね。期待してますよ。」  
「声をかけると、悪戯っぽくニヤリと笑った萩原は私にこう返してきた。  
「ワッぱっかり。そんなこと思っ

はじめ決められており、予選の5回戦で同じ人が二度顔をあわせることはない。  
2回戦で注目していたのは、萩原聖人と飯田謙治の対決である。前回の「宝巻選抜大会」でも、飯田は萩原との直接対決で勝つていない。唯一、同点でトップを分けた時も、オーラスの萩原の和了で飯田が追いつかれるという展開。飯田はここで萩原を叩き、「コンプレックスを解消しておきたいところだが、結果はまたしても萩原トップで飯田は2位である。  
同じく回戦、ギヤラリーから「おっ」とよめきが始まる。国士無双である。痛恨の放銃は読者代表・深居利基だ。  
「アガッてたつもりはないんですが……。やっぱり普段のリズムで打てなかったんですね」  
地味目のスーツに白いジョギングシューズ、「必勝の鉢巻さにはお茶目なイラストをあしらっていらのがもう一人の読者代表、オセロとマランの鉄人・坂口和夫。この人、実にミョーなのである。

「奇跡が起りましたねえ」と語るのは萩原聖人だ。5回戦は苦しい展開ながら、オーラスの福島治のリーチにトップ目の忍田幸夫が満貫を打ち込んでトップが転がり込み、1位で予選通過を果たしたのである。  
「どきどきと自然体の人なので、対照的に飯田謙治はどこまでマスクが緊張感にあふれている。おれ、この前の大会さあ、予選は絶対調ったのに、一番みんなが注目する決勝でハコがぶつて、それだけが目立ちちゃったでしょう……やなこと思い出したなあ。決勝、みんな後ろで見てるしなあ。ミスしよがったぞ。」なんて思われるのも嫌だなあ。(笑)



## 覇

を競う四鬼神。そして、運命は二転三転

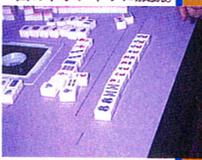


第6代最強位・飯田謙治

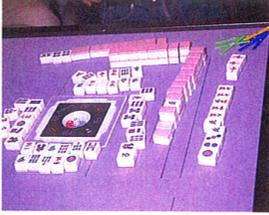
南3局。ラス目の安藤が起死回生のハネ満ツモノ/大逆転優勝か…!?



東1局。萩原が4巡目リーチ。追っかけた飯田のドラシャボに放銃。



南1局1本場。萩原のリーチモト通4100オール。飯田とデッドヒート!



南4局。倉田1000オールツモでトップ目に。ほほ横一線の勝負へ!!

南4局1本場。運命の倉田から出た…!! 飯田マンガンで優勝!

副賞の自動車「煙快」に思わず頬ずりする新最強位。

には「プロとして」もっと活躍してほしかったと、期待をすればこそ言っておこう。  
予選大会の枠別に見ると、この日もっとも活躍したのは「各界豪選抜大会」からの4人だった。なにしろ3人が決勝進出を果たし、4人目の萩原も8位と健闘するものすごい。秋本の本業の映画評の愛読者としては、彼好みの痛快アクション風の麻雀をこれからもバシバシ打ってほしいところだ。  
対照的に苦杯をなめたのが、わが「漫画家大会」代表だ。来賓と甲良の他は、おたみのが13位、村野守美はまさかのラスに終わってしまった。いずれも実力者だけに、麻雀の難しさを改めて考えさせられた。  
この日はこうした大会には珍しく、断トツの人間が現れなかった。予選1回を残して16人中12位までには勝ち残りの可能性が充分にあったのだから、どれだけ勝り合っていたかおわかりいただけるだろう。そんな中で決勝進出を果たしたのは、奇しくも全員、予選最終戦でトップをとった人だけなのである。  
最後の最後まで誰が勝ってもおかしなく、大会史上最高の決勝戦に臨める前に、予選からいくつかの名場面をピックアップしておこう。(山口へ続く)